

今回は白内障の最新手術についてお話しします。

現在、一般的な手術時間は約10分前後で、痛みはほとんどありません。実際の手術では、手術機器や眼内レンズを入れるため、目の表面を3ミリの切る必要があります。さらに進歩した最新の手術法では、切るのは約2ミリでよくなっています。

白内障 ②

身近なものになりました。施設によっては入院の必要がなく、日帰りができるようになっていきます。

ただし、白内障の症状が進行している場合や、以前に目をけがした人で、目に損傷がある場合などは、以前のように大きい切れ目を入れる手術が必要になる場合があります。

白内障手術では水晶体の代わりに眼内レンズを挿入しますが、このレンズも日々進化しています。今までの眼内レン

した。

というのは、水晶体は自動的に厚みを変えることによって、遠くから近くまでピントを合わせさせる役目をしています。しかし、従来の眼内レンズは、ピントを1カ所しか合わせることができないので、それ以外のところは眼鏡で補うことで調節するしかありませんでした。

ズは水晶体の機能を完全に満たしてはいませんが、

遠近見える眼内レンズも

きませんが、遠くと近く

の2点に焦点を合わせる

ことができます。これで多くの人が眼鏡



を使わなくてもよくなりました。また、乱視を眼内レンズで矯正できる乱視用や、多焦点眼内レンズと組み合わせた乱視用

多焦点眼内レンズも実用化されています。

このように白内障の手術は、単に濁りを取り除き、見えるようになればよかったという時代から、よく見えるのは当たり前で、さらによく見えるようになる機能、すなわち「Quality of Vision (クオリティー・オブ・ビジョン)」が望まれる時代になってきています。そして私たち医師も、常に進む医療や技術についていけるよう日々勉強と研究が必要だと実感しています。

(スカイビル眼科医院 院長・秦 誠一郎) <第4月曜掲載>